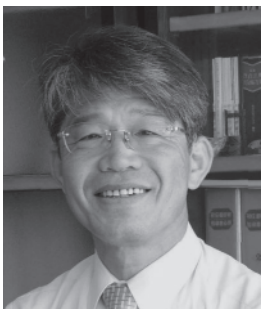
都留文科大学 同窓会報

第31号会報

発　行　都留文科大学同窓会事務局
責任者　亀田孝夫
山梨県都留市田原3-8-1
☎ 0554-43-4341

都留文科大學
同　窓　会

同窓生のさらなる活躍を願って！



都留文科大学同窓会会長
千野　文雄

全国３万人の同窓生の皆様方にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、日頃より本会発展のため、それぞれのお立場でお力添えをいただいていますことに心より感謝申し上げます。

さて、昨年８月の山本美香さんの訃報は本学並びに同窓会のみならず、世界中に大きな衝撃として伝えられました。美香さんには、この会報に何度か原稿をお寄せいただいていますので、その活躍ぶりは会員の皆様方ご承知であったろうかと思います。全国各地の支部から、同窓会としての対応に関して多くの意見が寄せられ、告別式に際しては、同窓会としても弔意を表させていただきました。また、10月４日に都の杜うぐいすホールで開催された「偲ぶ会」には、県内外より多くの同窓生のご出席をいただきました。私たちは、世界の紛争地域からそこに暮らす子どもや女性の姿を通じて戦火の惨状を報道するとともに、平和の尊さを発信し続けた美香さんの遺志をしっかり受け止めるとともに、改めて心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

一方で、朗報も多くありました。大学職員でもある佐野夢加さんは、ロンドンオリンピックの日本代表として、予選突破こそ果たせませんでしたが、女子400メートルリレーのアンカーを走りましたし、渡辺玉枝さんは73歳にして再度エベレスト登頂を果たし、自らが持つギネス世界記録を10年ぶりに塗り替え、その偉業は各方面で大きな話題となり、山梨県のイメージアップ大賞を受賞されました。

また、10月には長野県支部が設立され、私も加藤祐三学長とともに須坂市で開催された総会に出席し、お祝いを述べるとともに、お集まりいただいた多くの同窓生と懇親を深め、楽しい一時を過ごすことができました。広い長野県のこと、支部設立に至るまでには幾多の困難があったことと思われますが、代表の堀内敏明様をはじめ、お忙しい中ご苦労いただいた関係各位に心より感謝申し上げます。長野県支部の設立により，全国で36支部が設立されたことになりますが、ある若い同窓会員から「私の地元である栃木県、そして家内の出身地、和歌山県にも支部が設立されていません。大変残念ですし、支部設立に向けてどのような準備をすればよいのか教えて欲しい。」とのメールが事務局に寄せられ，さっそく資料をお送りした経緯もあります。長野県に続いて37番目、38番目の支部が設立され、１日も早く、全国47都道府県の全てに支部が設立されることを願ってやみません。

終わりになりましたが、今後も続くであろう厳しい社会情勢の中で，「学生が主人公の魅力あふれる大学」という本学法人化の目指す理念に向かって、さらに全国の同窓生諸氏の智恵と力を結集していきたいと思います。皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

平成24年度　都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数	No	都道府県名	卒業生数
1	北海道	586	13	東京都	1,333	25	滋賀県	101	37	香川県	143
2	青森県	234	14	神奈川県	1,295	26	京都府	241	38	愛媛県	266
3	岩手県	496	15	新潟県	608	27	大阪府	496	39	高知県	77
4	宮城県	590	16	富山県	562	28	兵庫県	829	40	福岡県	239
5	秋田県	231	17	石川県	561	29	奈良県	96	41	佐賀県	81
6	山形県	318	18	福井県	485	30	和歌山県	184	42	長崎県	192
7	福島県	728	19	山梨県	3,443	31	鳥取県	160	43	熊本県	187
8	茨城県	411	20	長野県	970	32	島根県	225	44	大分県	109
9	栃木県	453	21	岐阜県	506	33	岡山県	367	45	宮崎県	151
10	群馬県	314	22	静岡県	1,307	34	広島県	492	46	鹿児島県	328
11	埼玉県	562	23	愛知県	1,176	35	山口県	181	47	沖縄県	191
12	千葉県	593	24	三重県	365	36	徳島県	355	48	外国、不明等	6,056

支部設立済都道府県

合　計	29,874

平成24年４月１日現在

大学の近況

都留文科大学学長
加藤　祐三

全国の同窓会、同窓生のみなさま、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

大学の近況の一端をお知らせします。本学は４年前に公立大学法人となり、経営の責任者である西室陽一理事長と、教育研究の責任者である学長（副理事長）が支えあい有無相通じて、本格的に新しい体制を進めています。

一昨年の春に「４つのプロジェクト」を立ち上げ、(A)入試戦略、（B）教職課程・教職大学院、（C）カリキュラム改定、(D)センター機能の強化(就職支援等５つの組織の強化再編）を議論し、可能なものから実施に移しています。（C）のカリキュラム改定は平成25年度から実施に入り、新しく魅力的な科目が導入されます。（D）のうちキャリアサポート室を平成24年４月からキャリア支援センターに格上げしました。かつては卒業生の大半が教員になりましたが、今では約２割であり、他の約８割は公務員や会社員等になります。そのため民間企業に強いキャリア専門員を増やし、センターの内装も一新、多くの学生が立ち寄るようになりました。就職率の向上も嬉しいニュースです。

また外国語教育研究センターと留学室を統合のうえ、さらに日本語教育を加えて、これら３つの機能を持つ国際交流センターを平成25年度から開設します。

少子化と空前の不況で学生確保競争が激化するなか、本学は受験者数が漸減にとどまり、夏と秋のオープンキャンパスも好評で、参加者が増加しています。受験傾向に変化が見られるため、調査を行い、対応を検討しています。また直近の“難易度ランキング”（『東洋経済』等）を見ても、東西の有名大学に伍して健闘しています。

教育の質の高さは、卒業論文（卒業研究、卒業演奏等）を必修に課していることにも見られます。自分の課題を決め、資料を集め、体系的に叙述する卒業論文の作成は、卒業生に高い能力と大きな自信を与えています。

部活の各分野にもめざましいものがあります。特記すべき２つを上げましょう。スポーツ部門では、卒業生の佐野夢加さん（文大職員）がロンドン・オリンピックの女子400メートルリレーに出場、アンカーをつとめる快挙を果たしました。また全日本合唱コンクール全国大会で、合唱団が４年連続の金賞を獲得しました。これらの活躍ぶりは、いずれも学長ブログ（本学のホームページ）に掲載しています。

ご承知の通り、都留は人口３万余のうち本学学生が約3000人という「大学町」です。これは誰もが抱く「不思議」の１つですが、朝日新聞教育欄の「大学サバイバル」（平成23年１月20日）に、「地方の小都市　不利では？」との見出しで掲載され、「安心できる大学町　生活費も安い」と紹介しています。各地から集まる在学生たちは、先輩諸氏の支援をたいへん心強く思っています。教職員、学生ともども、この「小さな大学町」の誇りを胸に、いっそう努力を重ねる所存です。

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科
名誉会長	加藤祐三	
会長	千野文雄	S48英
副会長	桐井幸雄	S32初
	木浦憲一	S46初
	亀田孝夫	S51英
	原　喜雄	S53初
庶務会計	小幡哲明	S56国
	河端雄一	S63初
	藤本信夫	大学・課長補佐
事務局長	加藤一雄	S53初
事務局次長	浜欠亮吉	S39国
	外川正純	S46英
	鈴木　守	S55初
	原田裕太	H７初
監事	淡野香百合	S39初
	相川洋子	S52英
北海道支部長	横山　勲	S40国
岩手支部長	堀籠智志	S53国
宮城支部長	千葉龍正	S51初

役職名	氏名	卒科
山形支部長	鈴木雄二	S55国
福島支部長	大竹豊紀	S39初
茨城支部長	宮内健治	S52国
群馬支部長	齋木雄造	S52国
埼玉支部長	渡邉哲朗	S39初
千葉支部長	野田　純	S46国
東京支部長	松本多加志	S44初
神奈川支部長	板倉忠臣	S30初
新潟支部長	池原栄一	S50初
富山支部長	澤井　隆	S48国
石川支部長	西田良治	S49国
福井支部長	西出健一	S50初
山梨支部長	倉田由和	S38初
長野支部長	堀内敏明	S54初
岐阜支部長	山本吉朗	S40英
静岡支部長	清水　猶	S42国
愛知支部長	岩重佳子	S50英
三重支部長	中矢泰之	S43国
大阪支部長	泉川芳夫	S49初

役職名	氏名	卒科
兵庫支部長	渋谷訓生	S41英
奈良支部長	瀧川佳市	S32初
鳥取支部長	藤田　修	S49国
島根支部長	木村晴男	S43初
岡山支部長	原田直樹	S45国
広島支部長	小谷桂司	S44初
徳島支部長	小倉健司	S53英
愛媛支部長	谷川忠孝	S42初
高知支部長	清岡典代	S40国
長崎支部長	西田正人	S40初
熊本支部長	永田好文	S47初
宮崎支部長	荒巻孝行	S35初
鹿児島支部長	溝口通大	S39初
沖縄支部長	金城宏安	S33初
北海道理事	当銀誠博	S39初
兵庫県理事	赤穂榮一	S40英
山梨県理事	若林四郎	S31商
	田中克己	S52初
	吉田一郎	S45国

役職名	氏名	卒科
山梨県理事	鈴木　茂	S53初
	芦澤俊夫	S48初
	小林洋子	S49初
	一瀬英治	S46国
	朝比奈一正	S39初
	作地　眞	S46国
	奥脇隆樹	S45初
	赤松金次郎	S35商
	日野原晴男	S48国
顧問	奥秋順作	S31初
	志村武男	S31商
	後藤　敬	S33商
	佐藤唯一	S32初
	佐藤英雄	S38国
	輿石　東	S32初
	山縣永良	S39国
	勝俣武男	S41初
	永田清一	S46国
	小林孝次	S46英

社会科学を教え続けて

都留文科大学退職教員
初等教育学科
後藤　道夫

1981年に常勤となり、初等教育学科の社会科関係の授業を受け持ってきた。担当科目は時期によっても違うが、ゼミのほか、社会概論、社会教材研究、社会教材研究演習、労働論、職業生活と教育、社会科学基礎、教養の総合演習などである。

大学院では社会哲学を専攻したということもあり、社会科関係といっても教育学ではなく、社会科学を軸に授業をやってきた。小学校の社会科と言えば、地理･歴史が通り相場だが、教員になるつもりの学生に理解してほしい授業内容を考え続けるうちに、私の授業では、現代社会の話題を多く取り上げるようになったと思う。

1990年代前半からは自分の研究対象の中心に日本の「構造改革」がすわり、さらに、「貧困」、「ワーキングプア」、「社会保障」などが加わった。授業の方でも、小学校の社会科で直にあつかえるわけではないが、子どもの貧困、就学援助などの話題が増えている。

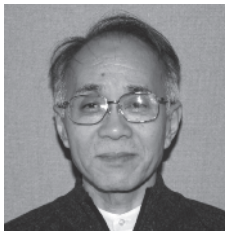
もともと社会科という科目は、基礎的知識を得るだけが目的ではない。自分の生活や仕事の状況を大きく社会の中で客観的に理解し、問題の改善をはかる力と姿勢を養うことも、社会科の大事な目的だ。基礎知識といっても、必要があれば調べ、ものを言い、周りを説得し、働きかける、そうした知的・精神的能力と姿勢の「基礎」である必要があろう。ただの暗記ではない。

子どもが学校教育の中でそうした力を養えるには、教師が子どもや親の生活と仕事の状況について、ともに知り、想像し、理解しようとする姿勢が必要だろう。そうでなければ、子どもが自分の状況を自覚するために考える初歩的ヒントも示せないからだ。そのためにも、教師自体にそうした基礎知識と社会的センスが求められよう。

初教の教員となってから、何とかそうした姿勢と力をもつ教師に育ってほしいと考えて授業を続けてきた。九州の水俣に学生たちを連れて行き、患者さんや治療・救済に走り回る医師や看護士たちの話を聞かせる研修旅行も、はじめてから20年を超えた。

私の授業に接してきた学生たちの意識のどこかに、こうした感覚や姿勢が「忘れ残」っていてくれれば、大学教師生活30年余の望外の幸せである。

すぎさりし日々



都留文科大学退職教員
国文学科
楠元　六男

都留文科大学国文学科を卒業後、立教大学大学院に進学し、本学に赴任したのは31歳の時でした。それから34年間お世話になりました。

人生のほとんどを都留とのかかわりですごしてきたようなものです。長いようで短い、34年間でした。

その間、大学は独立法人化し、体制的に大きく変容しました。しかし、教員と学生さんとの親密な大学という伝統は、今も堅持されています。

34年間の回顧となれば、その重みに当惑するばかりなのですが、とつおいつ思い出話を綴ってみたいと思います。

30代から40代はともかくも、学生さんたちと走った時代でした。その間、福岡大学教授の高橋昌彦氏・立命館大学教授の赤間亮氏・龍谷大学教授の和田恭幸氏や北九州高専に奉職した位田絵美氏らを輩出できたのは、私の人生の財産だと思っています。

40代から50代にかけて、学会の役職などで忙殺されることも多くなりましたが、都留文科大学で俳文学会全国大会を開催できたことは記憶に残っています。大学当局はもちろんのこと、多くの学生さんたちの協力を得て、全国から270名余の研究者の方々に参集いただきました。

50代から60代にかけて、俳文学会事務局代表もお引き受けし、大学の協力のもと大過なくつとめあげることができました。

研究面では、『芭蕉、その後』（竹林舎）により、文部科学大臣賞と角川源義賞をいただきました。

しかし、そんなことより私の誇りとするところは、学生さんたちとミュージアム都留において、毎年「甲州俳諧展」を開催できたことです。これは、本当に楽しいものでした。

以上、簡単な報告でした。思い返せば、常に学生さんと大学に支えられての34年間だったようです。心から感謝申しあげる次第です。

文大15年から得たもの

ー退職にあたって思うこと

都留文科大学退職教員
社会学科
千葉　立也

この3月末で、都留文科大学を退職することになりました。前任校での15年と合わせ、30年の大学専任教員としての勤めを終えることになるわけですが、未だその実感は涌きません。私にとってどんな経験だったのか、今の時点で思うことを振り返ってみました。

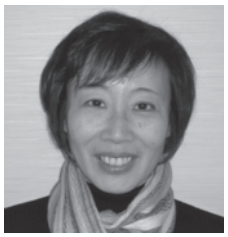
山間の小都市、都留市が勤務先になることで、これまで東京郊外でしか暮らしたことがなかっただけに、新鮮な体験ができたと思います。とくに、都留市の市民活動推進条例づくりの委員会にかかわらせていただいたことから、地域づくりに関わる意欲あふれた地域の方々と知り合うことができ、都留というまちを、いくらかでも「内側」から垣間見ることができた感じがします。4年間でも都留に暮らした同窓生のみなさんと比べると、浅いかもしれませんが。

さらに、毎年、ゼミの学生を中心に行っていたフィールドワークも、都留での教員生活の大きな資産となりました。「地方中小都市、農山村の自律（自立）と交流の地域づくりを学ぶ」というテーマで、着任3年目から継続して行ってきたものですが、南東北から近畿にかけて、都留と同様の人口3万規模の市や町を主な訪問地としてきました。その際、まず伺う市役所で、また聞き取りをさせていただく方々から、そういえばあの人も・・・というようなことを伺うこともたびたびありました。文大が小さいながら全国から学生を集め、また送り返しているということを、実感できる機会でした。

また、中山間地域の現場から学ぶ地域経済ということで、私の主たる担当科目である「地域経済論」の趣旨も、豊かな自然と社会的な交流を基礎に地域（ローカル）の発展を考える手がかりになるべきだという考えに基づくものへと変わっていきました。これも、教育研究の場として文大に縁をもったことからの成果といえるでしょう。

日本全国、さらに世界との交流を地方小都市で結びつける大学として、文大は独自な道を歩んできたと思います。小さな大学でも、知恵と意欲が結集すれば、独自の道をさらに発展させることはできるでしょう。同窓生の皆様方とともに、今後も、文大の行方を見守り続けたいと思います。

卒業生の頼もしさに励まされ



都留文科大学退職教員
社会学科
田中　夏子

専任教員を辞すに当たり、三つのことを書きとめ、退任の挨拶といたします。第一は、教員どうし、連携を取りながら学生を育てられる職場文化の存在です。私が社会学科に着任した時期、社会学科では、二つの専攻を設けて学科拡充を計ろうと議論されていました。その後新体制を作る過程で、教員数も増え、様々な専門性がぶつかりあう刺激的な知的空間が生まれました。基本的な信頼関係のもと、考え方や手法の違いを、時間をかけて認め合う学科運営によって、困難を抱え込まず、共有したり相談し合う職場文化が深まったと感じています。そうした職場で教育や研究活動に従事できたことは、私にとって、心強いものでした。

第二は、この10年間に毎年7～13名、総計約100名の学生たちが、地域社会論ゼミを卒業し、社会に巣立ったことです。連絡が続いている卒業生には、社会学科の授業「仕事から学ぶ現代社会」でゲスト講師として来てもらい、仕事の醍醐味のみならず、落ち込む場面も含めて後輩たちに伝えてもらっています。社会学科の学生たちの中には、「地元に帰って地域貢献的な仕事をしたい」という希望を持っている者も多く、地方公務員、教員はじめ、地域密着型企業や非営利団体に目を向ける者も少なくありません。彼ら・彼女たちが、転職する等働き方を切り替えつつも、「地域」に心をむけて生き方を模索していく姿に出あうと、こちらもおおいに励まされました。

第三は、かけがえのない同僚、武居秀樹さんが倒れ、闘病を経て亡くなられたことです。武居さんは、第一に記した知的空間と信頼関係づくりを中心的に担っていらした一人でした。また、入院中、お見舞いにうかがうと、ベッドの脇にメッセージノートがあり、多くの卒業生の方々がお見舞いの言葉とともに、ご自分の生き方、考え方を記していらしたことに心打たれました。武居さんが、病床にあっても同僚や卒業生たちを支える存在であったことを改めて痛感しました。紙面の都合で三つに絞りましたが、10年間、本学に関わることができたこと、多くの学生の皆さんと出会えたことに感謝して筆を置きます。

七年間の経験を今後に活かして

都留文科大学退職教員
比較文化学科
重冨　惠子

７年前の春、富士山の美しさに心躍らせながら着任いたしました。大学で教え始めたのは四十を過ぎてからのことで、研究歴教育歴ともに甚だ浅く未熟な私を採用していただいた本学には深く感謝しております。比較文化学科の先生方はじめ本学の諸先生方、事務局の皆様に教え支えていただく毎日でした。本当にお世話になりました。有難うございました。

短い間でしたが、ラテンアメリカ地域研究と開発、国際協力が専門の私にとって未知の経験満載でした。フィールドワーク実施準備のために行なったオーストラリアとニュージーランドへの都合７回の渡航、調査は、片言英語での大チャレンジでありました。日本語教員養成課程や留学生用科目の人事６件に携わったことも貴重な体験となりました。なにより開発教育教材を講義で活用できたこと、国際協力や持続可能な開発というテーマで環境分野も含めた授業ができたこと、授業外でもワークショップができたことは極めて大きな収穫であり成果となりました。そもそも政府開発援助関連コンサルタント企業や独立行政法人国際協力機構(JICA)での経験や知見を整理し、開発教育を試みたいとの思いがありました。この実践経験を今後さらに発展させたいと思っています。

ここ３年間ほどJICA国内支援委員を務めるなかで、途上国の農村開発と日本の中山間地域問題との共通性に気付き、日本と比較しながら持続可能な開発についての研究を深める必要性を強く感じるに至りました。しかし我が身を振り返れば、教育と学務に注力する一方で時間不足を理由に研究を等閑にした７年間でした。不器用さ故とはいえ、今般これを深く反省し、今後はラテンアメリカ地域研究に邁進すると同時に、持続可能社会構築に向けた研究、実践のため、退職を決意いたしました。非常に大きい決断ですが、いずれまた人材育成へと繋げるべく今後とも精進を重ね、本学での経験を更に活かしてまいる所存です。

引き続きのご指導ご鞭撻を賜ることができましたら幸いと存じます。

氏名・住所等変更届はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAX で、お願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須項目及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合、はがきは自己負担でお願いします。

1　**ホームページ**

(1)本学ホームページより［卒業生の方へ］→［同窓会］→［同窓会氏名・住所等変更届け］にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。
都留文科大学ホームページ URL：**http://www.tsuru.ac.jp**

(2)ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のユーザー ID 並びにパスワードが必要となります。
ユーザーID：tsurubun-u パスワード：t10016（どちらも半角英数）※同窓会会員以外による不正使用がないよう、ユーザー ID・パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2　**E-mail にて送信**
E-mail：dousokai@tsuru.ac.jp

3　**FAX・郵送**
〒402-8555 山梨県都留市田原 3-8-1 都留文科大学同窓会　宛
TEL 0554-43-4341　内線 206　FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名（フリガナ）／旧姓 卒業年・学科	現住所／電話番号 勤務先名 勤務先住所／電話番号 勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合がありましたらご連絡ください。

活躍する同窓生

2回目のエベレスト

エベレスト女性最高齢登頂

渡邉　玉枝
（1960年商経科卒）

ネパールと中国の国境に聳え立つ山、これが世界最高峰のエベレスト8848mである。私は2002年５月16日にネパール側からこの山に登っている。そして昨年この山にチベット側からも登ってみたいと思い立ち、実行した。同じ山でも、その登路によって山は全く異なる印象を持ち、その難しさも異なる。

ネパールではこの山をサガルマータと呼び、中国ではチョモランマと呼ぶ。ネパール側から登った時は、ベースキャンプがすでに氷河の中、歩き始めからプラブーツを履き、アイゼンを装着。その先はクレバス帯となり、縦横に走るその割れ目には梯子を渡し、斜上するものには梯子を掛けて登る。この氷河歩きは実にスリルのあるものだった。ところが中国側からの今年の登路は、ベースキャンプ5200mから、6300mのABC（アドバンスベースキャンプ）までは雪や氷の上は歩かず、モレーン（氷河が押し出した大小の石）の上を歩いて行く。全くトレッキング気分で、アイゼンもプラブーツも必要ないのに驚いた。6300mのABCを越えるとようやく氷、そして雪の世界に入って行く。ノース・コル7300mまでは平坦な氷原を歩いて尾根の取付に達し、1000m近い標高差を登って行くが、それ程の技術を要するところではない。コル手前に１ヶ所だけ、クレバスに梯子を掛けた大きなギャップがあるが、ここには常時２人が待機しており、登山者を誘導してくれていた。ここを通過すると間も無くノース・コルのキャンプ地である。ノース・コルからアタックキャンプまでは雪の上と岩場が半々くらいか、もう酸素の薄い標高なのでほとんどの人は酸素マスクを着用していた。私達も少しずつ酸素を吸いながら登った。8300mのアタックキャンプ地に着くと、もうシェルパさん達は私達のテント設営のため、凍り付いた地面をピッケルで慣らし、薄い空気の中での重労働に励んでいた。なんとか横になれる広さにテントを設営し、用心して中に入る。入る時も出る時も細心の注意が必要である。ここで転がったら何処まで行くのか、斜面の傾斜は相当なものだった。夕食を７時に食べ、私達は２時間ばかり横になり、夜９時に山頂に向けてスタートした。私のヘッドランプが暗い、とシェルパさんが自分のランプと取り替えてくれる。歩き始めてまだそんなに時間は経過していないのに、突然私の足が上がらない。「ええっ、どうしてっ」私は焦った。シェルパさんがボンベの酸素が無くなっているのに気付き、酸素のせいだと分って酸素を取り替え、一件落着、ようやく長い登りに専念することができた。夜明けを過ぎ、下から見えていた三角雪田に到達、山頂は近い。午前７時に山頂到着、10年前は私たち以外に山頂に人は居らず、独占できた山頂だったが、今回は次々と人々が登って来ている。風も強い。山頂のポールに絡み付くカタの束は物凄い量に増えていた。ここが世界で一番高い所、それを実感し、混み始めた山頂を次の人々に譲って、私達は軽く食べ物を口に入れ、下山に入る。下りを先行していた若い女性のグループ、なかなか道はあけて貰えず、後に続いて居たが、ようやく追越点を見付けて先行する。アタックキャンプには16時着、今日の内にもう少し下まで降りようと言われ、もうひと頑張りと下りを続ける。私の足はもう限界にきていた。でも明日が少しでも楽になるならもう一頑張りと思うものの、足が言う事を聞かない。ようやくテントまで辿り着き、私は疲れた体を横たえる。もう辺りは暗くなり始めていた。行動時間は20時間を越えただろう。お腹もペコペコ、同行の村口さんにラーメンを作って貰う。明日の下山はほとんどが雪面となり、大分楽になるだろう。長い長い登頂の一日がようやく終わった。シェルパさん達はアタックキャンプのテント２ヶ所分を撤収してノース・コルへ荷下げ、更に私達の泊まっているテントも明日は撤収して下ろしてくれる。頼もしい力持ちの人達である。翌朝、雪の斜面に出るとカラビナの掛けかえが忙しい位の速度でどんどん下って行く。ノース・コル手前では、「コングラッチレーション」と言う声が掛かる。メキシコから来たという登山者が、「登頂おめでとう」と声を掛けてくれた。ノース・コルまで私達の登頂のニュースは伝わっていた。ノース・コルで昼食を取り、ABCまでの下降のエネルギーを補給する。ABCまではまだかなりの距離がある。しかし、ノース・コルからの雪稜の下りは、それ程の難所は無い。梯子の掛かった大ギャップを下ると後は急な雪稜の下降、それから氷の平原となり、ABCに着く。長期の登山もいよいよ最終盤である。氷原歩きが終る所に、ABCからキッチンボーイが魔法瓶に熱いミルクティを持って出迎えてくれた。美味しい、そして暖かいのが嬉しい。ABCで明日は休養を取り、明後日はもうベースキャンプまで下山となる。長い登山活動の終了は近い。

山頂にて　渡邉さん、シェルパさん

活躍する同窓生

夢舞台
～都留から世界へ～

ロンドンオリンピック
4×100mリレー日本代表
佐野　夢加
（2007年初等教育学科卒）

2012年夏。私の夢・目標であったロンドンオリンピックが幕を開けそして幕を閉じました。振り返ってみると長かったような短かったような不思議な感覚でいます。ロンドンオリンピック出場に際し、ご支援いただいた同窓会の皆様にこの場をかりて感謝の気持ちを伝えさせていただきます。

都留文科大学の卒業生は全国各地にいて、いろいろな支援・サポートをしていただき応援していただきました。本当にありがたく思っています。

私は都留文科大学に入学し、その後も練習環境を変えることなく競技を続けることができる都留文科大学職員として、働きながら競技を続けてきました。社会人になり仕事と競技の両立に悩み、挫けそうになる日もありました。一人暮らしをやめ、都留まで1時間かけ自宅から通う生活を選びました。家族には本当にいろんな面でサポートしてもらい、家族の温かさを改めて感じました。私をあらゆる面で支えてくれる家族がいなければこの夢を叶えることができないと思いはじめました。ロンドンオリンピックは「家族の夢」でもありました。数年前から家族でロンドン貯金を始め、この貯金が使える日を楽しみにしていました。都留の職場では、学生時代お世話になった先生方に、会うたび声を掛けていただき、学生時代と変わらずに今も同じようにご指導いただいています。そんな生活の中2012年のロンドンオリンピックに向け、競技に専念できる環境を1年間いただきました。このことは私にとって大きな転機でもあり、思う存分「走ること」に没頭させてもらう絶好の時間となりました。職場の皆様の理解も一層深まり、職場内でも「ロンドンに行くぞ」と声をかけていただきました。やれることは全てやりたいという気持ちで、朝から晩まで１日２回練習をし、一日一日を大切にしてきました。「次の日の事は考えない」「毎日を楽しく過ごす」そんな気持ちで日々を過ごしてきました。

2012年6月に行われたオリンピック最終選考会である日本選手権には、都留から職場の方や、大学時代の友達など多くの方々が応援に来てくれました。本当に嬉しく思いました。みんなの応援が力となりオリンピックの舞台へ夢を繋いでくれました。

私がこのオリンピックという大舞台に立てたことは私を支えてくださった全ての皆様のお陰です。私にとって都留文科大学とは陸上競技だけでなく、人として成長させてくれた場所であります。特に特別な事をしてきたわけではなく、今ある自分の環境の中で、精一杯のことをしてきた結果だと思っています。そこには多くの人との関わりがあり、応援があり、そして支えがありました。だからこそここまで続けてくることができ、ロンドンオリンピックという舞台を夢みて、目指すことができました。

恩師である麻場先生が成し遂げることができなかったオリンピック出場は私が果たすと心に決めていました。これこそが私の最大の目標となりました。大学に入学して9年間共に歩んできた先生が口にしていた「先生を超える選手になってほしい」という言葉が、ここにきて私を大きく成長させてくれました。「ただ走ることが楽しかった」小学生時代の素直な気持ちが私の背中を押してくれました。最後は初心に戻るのだな、と私は感じました。

競技を始めて19年。今まで支えてくださった全ての方にオリンピックを身近に感じてもらい、私が走ることで、誰かに勇気や希望を与えられていたら、これほど嬉しい事はありません。本気でやれば絶対できると証明したい、本気を伝えたいと思っていました。後輩たちには大学での4年間を悔いのない時間にしてもらいたいと思っています。本気でやった結果にはきっと悔いはないと私は思っています。夢や目標に向かってここまで競技をさせてもらえたことに感謝し、これからの生活を送っていきたいと思います。

都留文科大学に関わるすべての皆様、応援本当にありがとうございました。

活躍する同窓生

教師は、自ら学び続けるもの そして、人に育てられるもの

武蔵野短期大学　教授
松本　多加志
（1969年初等教育学科卒業）

1　現在の私

埼玉県狭山市にある武蔵野短期大学で幼稚園や保育園の先生を目指す学生と共に“よりよい教師の在り方”について学び合っています。

担当している主な授業は、「教職概論・教育課程総論・教職保育実践演習」等、教職の基本となるものです。そして、これらの講義内容は、いずれも都留文科大学、東京都の公立小学校や教育委員会等での体験の中で学んだことが礎となっています。

また、2006年より、都留文科大学同窓会東京支部の支部長を務めさせていただいております。

2　都留文科大学で学ばせていただいたこと

教職にかかわる講義・実習が第一ですが、私が1年生時（1966年）に発足した『應援團』と『中央線友の会：山梨・神奈川・東京に在籍し、中央線で通学している学生のサークル活動』が、教師に向けての資質を培う大きな学びの場ともなりました。

應援團では、団員同士の気概（心）と仕草（技・体）の一体化を図り、大会等に参加する学生への応援活動を通して、“敬意表現”の大切さを学び取ることができました。中央線友の会では、長い通学時間を旅行気分で過ごし、年数回でしたが、中央線の大月駅から高尾駅までのそれぞれの駅に近い名勝地（岩殿山、猿橋、扇山、桂川、陣場山等々）を四季を満喫しながら散策しました。40数年前で、いずれも自然が溢れるのどかな風景で“自然に対する畏敬の念”をしっかりと育むことができました。

この学生時代の体験から得た“宝”は、『絆の大切さ』と『コミュニケーション力の大切さ』です。このことは、教職に携わる者の基本的な資質や能力である「自己理解・他者理解」の中枢となるものを身に付けさせていただいたものと考えています。

應援團や中央線友の会の方々とは、今でも親交を重ねています。また、昭和44年度卒業生は、同窓会総会日に合わせ、一泊の「ミニ同窓会」を谷村近郊で行っています。これらの会は、同期生や同窓生から様々なことを学ばせていただくとともに、教職にかかわることができた原点である都留文科大学時代の自分を振り返る場ともなっています。

3　東京都の教員生活で学ばせていただいたこと

1970年４月に小学生の頃からの夢であった教職に就くことができました。初任の年、当時は、新規採用教員研修会が年８回程度実施され、３月の最終回に初任者代表として授業を行うことになりました。“授業は１時間で勝負”当時の私の気概でした。体育会系の私は、体育をと考えましたが、体育館も無い頃です。１時間勝負の道徳の授業を公開することにしました。結果は不十分なものでしたが、このことがきっかけとなり、都や区・市の道徳研究会に所属させていただき、教員時代の20年間に18回も研究授業をさせていただいたり、道徳教育にかかわる都の小学校教育研究員や教員研究生、教師力を磨く文部省（現：文部科学省）の中央研修や海外研修等の研修に任用させていただくことができ、道徳を中心として学級・教科指導に力一杯取り組むことができました。また、文部省の海外日本人学校派遣教員選考に合格し、３年間スイスの学校で勤務させていただきました。これらは、私が所属した各学校の校長先生、先輩、同僚や研究仲間の方々からの厳しく温かいご指導ご支援があったからこそと思っています。感謝の一言です。

道徳に関心のあった私は、指導主事試験を受け2年不合格でした。校長に教頭受験を勧められ次の年に採用いただけました。３年目の時、教頭から指導主事への任用制度が生まれ、第１期生として合格させていただきました（管理職手当は０ですが）。その後、市の教育委員会参事を勤めさせていただき、最後に小学校の校長に任命されました。管理職としての17年間に、全国小学校校長会や全国道徳教育研究会等で要職を担わせていただくなど、担任とは異なる視点から学校教育の充実・発展を目指す活動への実践的な取り組み方を学ばせていただきました。

私が、多種多様なことに挑戦したのは、初任校の校長の“教師が学ぶ後ろ姿こそ教え子への生涯にわたる教育だ”の一言が心に響いていたからです。

地域に着実に根付く同窓生

北海道支部長　横山　勲

平成24年度の北海道支部桂友会総会は、さる8月4日に札幌市内のホテルを会場に道内各地から20数名の同窓生が集い、支部総会・講演会その後懇親会が催されました。

当日、例年行われている同窓生による講演会では、英文学科を昭和56年に卒業された田中正実先生に講演をお願いしました。先生は大学時代ラグビー部に所属し、卒業後数年を経てから故郷に戻り、現在は札幌市内で教頭（中学校）としてご勤務されています。先生は、「教職生活をふりかえって」と題して、節目となる30年のご自分の教職生活の中で実践されてきたことを、豊富な例示とともに学校の現在をお話くださいました。特にこの間における生徒や保護者の変容については、現場の確かな経験を踏まえた多くの示唆に富むものでした。お話の最後に、学校課題に対してこれからも保護者や生徒とともに歩んで行きたいとする力強い言葉で講演を結ばれました。

なお、当日出席出来なかった全道各地の方々からは、「町議を3期目、この地で頑張っています。」「町内会役員として地域貢献をしております。」さらに「町の観光行事や人権擁護委員で多忙な毎日です。」などのメッセージも届いていました。本学の卒業生がそれぞれ地域に根付き、着実に活躍している頼もしさが伝わってきました。

懇親会の最後には「花のかげ」を、全員で歌い、来年の再会を期して本年の会を閉じました。

◎平成24年度役員

支部長	横山　勲		
副支部長	加藤　佳栄	中村厚喜夫	井口　郁将
事務局長	山本　洋嗣		
事務次長	照山　秀一	神野　昌代	
会計	大花　学		
本部理事	横山　勲		
会計監査	西多　弘	西山　肇	
事務局員	北田　則章	桜田　琢	金子　歩
顧問	日下　功	熊谷　勲	当銀　誠博
本部理事	当銀　誠博		

岩手県支部第13回総会開催のお知らせ

岩手県支部長　堀籠智志

東日本大震災に際しましては、全国の皆様から温かいご支援をいただき誠にありがとうございます。

震災からはや二年が経過し、沿岸地域では瓦礫の撤去も行われ、一見すると復興が進んでいるかのように思われますが、津波で校舎を失った学校では、隙間風が吹き込む仮設校舎で授業を行うなど、まだまだ震災の爪痕が残っています。

岩手県支部では、大学同窓会本部及び大阪支部より頂戴いたしました御見舞金を活用させていただき、同窓生が被災校の校長・副校長として復旧の陣頭指揮を執っている4校に見舞金を支給いたしました。

この場をおかりして、同窓会本部及び大阪支部の皆様にご報告いたしますとともに、御礼申し上げます。

さて、岩手県支部は平成元年に発足以来、隔年で総会を実施しており、**第13回総会を本年11月中旬に開催する予定**です。本会は、都留文科大学を卒業した本県出身者はもちろん、他県から本県にIターンされた同窓生の方々にも参加をいただき、二年に一度、楽しく親睦を深めています。

総会のご案内は10月頃郵送の予定ですが、事務局で把握していない同窓生の方も多数いらっしゃることと思います。つきましては、岩手県支部総会へのご参加を希望される方・ご興味がある方で、これまで岩手県支部事務局から一度も開催のご案内が届いていない場合には、下記までご連絡願います。

より多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。

全国の同窓会支部の益々のご発展と、同窓生の皆様方のご多幸を祈念いたしまして、末筆のご挨拶とさせていただきます。

連絡先
岩手県支部事務局長　伊藤昌俊（平元卒・国文）
E-mail：tsurubun4iwate@yahoo.co.jp

「べにばな会」第10回記念大会を開催して

山形県支部長　鈴木雄二

山形県出身の卒業生が集う「べにばな会」も平成5年11月13日に第1回支部総会を開催・設立して以来20年の歴史を重ね、この度第10回記念大会を11月17日(土)に山形市のホテル「ニュー最上屋」にて挙行しました。

大学からは副学長の福田誠治先生を来賓としてお招きし、県内から本会の設立にご尽力なさった武田茂行初代会長（現顧問）以下気鋭の県内卒業生15名が参集しました。その内には若手新会員も4名おり、これからの発展が期待されます。

小川秀人前会長より平成22～24年度の事業報告の後、新役員が選出されました。（卒業年度）

会長　鈴木　雄二（昭和55年度・国文）
副会長　佐藤　英樹（昭和60年度・初等教育）
同　奥山　広幸（昭和57年度・初等教育）
監事　白林　和夫（昭和60年度・初等教育）
理事
村山　小川　秀人（昭和55年度・国文）
同　鈴木　雄二（昭和55年度・国文）
同　和泉　一彦（昭和58年度・国文）
同　白林　和夫（昭和60年度・初等教育）
同　渡邊　隆（平成4年度・初等教育）
最上　武田　茂行（昭和55年度・初等教育）
同　佐藤　成美（昭和54年度・国文）
置賜　神尾　正俊（昭和55年度・国文）
同　佐藤　英樹（昭和60年度・初等教育）
同　中條　秀基（平成20年度・初等教育）
庄内　奥山　広幸（昭和57年度・初等教育）
同　原田　清一（昭和60年度・初等教育）
同　若月　力（平成4年度・初等教育）

以上の体制で活動を行っていきますので、よろしくお願いします。

その後懇親会に移り、福田先生から最近の大学の事情をお聞きして、各自在学中のことが思い出され、深更まで話題は尽きませんでした。

都留で結んだ深い絆は、生涯にわたって続く財産です。ぜひ後輩の皆さんも積極的に入会して、青春時代の熱き日々やこれからの未来を共に語り合いませんか。

絆・人の輪は支部総会から

宮城県支部長　千葉龍正

この会報がわたしたちの手元に届く頃、東日本大震災から３年目を迎えています。宮城県・仙台市では、平成24年度を『復興元年』とし、被災したわたしたちの立ち位置を見つめ直しています。25年度も引き続き復興に向けて強さと温かさを宿した心と眼で前を見据え，歩みたい、そう思います。この間、大学本部、同窓会本部そして各支部様から継続的な心温まるお見舞いとご支援を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

24年２月、石巻市東浜地区からわたしたち県支部員に『復興祭』の案内が届きました。東浜は、平成23年12月に被災地支援の大学合唱団によるクリスマスコンサート２日目の開催地であったところです。喜びながら参加したわたしたちは、東浜の人たちの復興を必ず実現させようとする不撓不屈の意志と歩みを感じながら振る舞われた大きく成長した牡蠣をいただきました。合唱団のコンサートは東浜の人たちの背中を押す力の一つになったのだなとうれしく、こみ上げてくるものを覚えました。

宮城県支部は、毎年２月第一土曜日を年度総会の日と決めています。23年度総会では，被災地支援活動の報告の後、会員相互の近況、都留時代の話で親睦が深まりました。終わりに「花のかげ」を会員肩を組んで歌いました。豊かで濃い時間でした。目の前の24年度総会も盛り上がり必定です。

平成25年度も、支部主催で教採研修会開催や会員同士の連携を図り、会員の力を総合・結集した活動を明るく展開していきたいと思います。

○平成24年度役員

名誉会長	鎌田　光彦・小野　俊次・鎌田　清
会長	千葉　龍正
副会長	白幡　守男・相沢　光信・森田　宏彦
	布施　勝久・高橋　克巳・菅野俊雄(事務局担当)
事務局	繁田　由美・坂本　忠厚・松浦　和宏
	一条　良介・齋藤　竜一・及川　恵子
	清水　進・佐藤　圭二
会計	横山　英美・小野寺直美
参与	及川　勝友・半澤登美子・横山　貞夫
	目黒つねみ・松田美智子・斎藤　章夫

震災からの復興

茨城支部長　宮内健治

同窓生の皆様には、お元気で御活躍のことと存じます。茨城支部同窓会では、本年度９月に水戸市三の丸ホテルで同窓会役員会を実施しました。支部長から同窓会理事会等大学の現状の報告があり、公立大学法人化された躍進する大学の紹介がありました。また、参加者から福島県と隣接した県北部の学校では体育館の改修等を継続中とのことでした。茨城県も東北３県に次ぎ被害からの早急な復興が求められます。

その後、交流の場をもちました。先輩の同窓生から大学が草創期の頃の思い出（下宿、学生生活）では、谷村町の状況などワンルームマンション全盛の現在とは隔世の感があります。県人会の思い出話もかつてのことで大学や都留市の変貌も驚くばかりです。次年度以降支部同総会の計画をしています。

◎茨城県支部役員

顧問	大川　英世（昭45英文）
支部長	宮内　健治（昭52国文）
副支部長	井坂　雄爾（昭61初教）
理事	長岡　省一（昭57英文）
理事	武田　真一（昭57英文）
理事	新井田由美（昭62英文）
理事	石川　順子（平元国文）
理事	野口　修（平元英文）
理事	関野　昌彦（平６英文）
理事	赤荻佐知子（平８国文）

すばらしい時間を共に

群馬県支部長　齋木雄造

群馬県支部では、平成24年８月24日（金）高崎駅ビル内、ホテルメトロポリタン高崎において、第４回総会を開催しました。

当日は、都留文科大学名誉教授、上杉陽先生のご出席も賜り、充実した総会とすることができました。上杉先生と語り合う「かつての教え子たち」の表情は、あの都留の時代に戻っていました。

議事では、役員改選が行われました。本支部設立当初から支部長としてお世話になりました角田達夫様（昭49英）、副支部長としてお世話になりました野中博雄様（昭49英）に心から感謝申し上げます。

ところで、今回の総会には、33名もの皆様が参加してくださいました。本当にありがたいことです。また、昨年度、一昨年度に卒業されたばかりの若い方々が８名も駆け付けてくださいました。『同窓会報・第30号』には、群馬県の卒業生数は303名と記されています。今回の総会を機に、これからも本県卒業生303名のつながりをつくれるよう群馬県支部として取り組んで参りたいと存じます。

＜群馬県支部役員＞

支部長	齋木　雄造（昭52国）
副支部長	熊川　稔（昭49英）
〃	原　俊明（昭59英）
事務局長	島田美恵子（昭44初）
監事	田村　麻路（昭55初）
〃	金子　朋裕（平２初）
庶務	江原　悠一（平10英）
〃	金沢　和子（平１英）
〃	古川　整（平11社院）

平成24年度の活動報告

千葉県支部長　野田　純

1　新規採用教員歓迎会

平成24年5月27日(土)に千葉市にあるポートプラザちばにおいて、平成24年度採用教員の歓迎会を開催しました。6名中4名の新規採用者をOB10名が温かく迎え、盛大にかつ和やかに会が行われました。新規採用者の悩みを聞き、適切なアドバイスと励ましの言葉を投げかけていました。今回が最初となる歓迎会でしたが、次年度以降も続けていくことを確認して終了しました。

2　平成25年度採用教員選考2次試験対策宿泊学習会

例年行われている2次試験対策学習会が、今年度は中高教員希望者が多くなったため、千葉県支部副支部長の川名和則氏が校長を務める市原緑高校を会場に実施されました。内容は右記のとおりですが、市原緑高校の先生方にも多数協力していただき、充実した学習会となりました。感謝申し上げます。

＜教員採用2次試験対策学習会＞

①期　　日
平成24年8月11日（土）12日（日）
②会　　場　市原緑高校
③宿泊場所　八幡宿第一ホテル
④参 加 者
・受験者　10人（小　6名、中高　4名）
・指導者　OB　6名
⑤学習内容
・模擬授業　・面接実習　・マット実技

3　山本美香さんを偲ぶ会

シリアで取材中銃撃を受け、亡くなった山本美香さんを偲ぶ会が、10月4日都留市で行われ、代表して支部長である野田が参列させていただきました。「美香さんのメッセージを未来へ」というテーマで行われた偲ぶ会は、多くの友人から美香さんの正義感とヒューマニズムが語られました。また、美香さんのお父様のお話は、まさに美香さんのメッセージそのものでした。ご冥福を改めてお祈りします。

東京支部の近況

東京支部副支部長　橋本秀夫

JR総武線水道橋駅前に東京都教員研修センターがあります。そのビルの屋上からは「東京都の先生になろう」と呼びかける大きな垂れ幕が今も下がっています。多くの人たちがその呼びかけに応え、東京都公立学校教員採用候補者選考が実施されました。すべての校種を合わせた応募者の総数は2万人を超えたそうです。ちなみに小学校全科の応募者数は5千人を超え応募倍率は4.7倍、中高共通は1万人を超え倍率は9.3倍だったそうです。

都留文科大学の学生も第一次選考に臨み、見事にその難関を突破して、多くの学生が二次選考へと進みました。嬉しさとともに何としても「東京都の先生になってほしい」との期待に胸がときめきます。

8月には東京支部の総力をあげて、二次選考に進んだ学生への支援「都留文科大学東京都教員採用選考第二次試験対策模擬練習会」が行われました。

練習会は、微に入り細をうがつ講師陣の指導と、それを貪欲に吸収しようとする学生とが切り結ぶ白熱したものとなり、こうした風景は初等教育学科教授植村憲治先生はじめ支部役員の方々によって立ち上げられた当時と変わることはありませんでした。

以下、模擬練習会の内容を記します。

1　開校式　松本支部長によるオリエンテーション
2　模擬面接試験
（1）集団面接（2会場）
・プレゼンテーション　・集団討論　・討論のまとめ　・質疑　〇講師指導
（2）個人面接（4会場）
・自己紹介　・授業説明　・場面指導　・一般質疑　〇講師指導
3　閉講式
（1）今後の心構え・・・田村　聡　榛原　紀子
（2）模擬練習会の総評・岩木　晃範
※講師は、現職校長をはじめ都公立学校の管理職や教育行政の経験者及び現今大学で教鞭をとる人など、いずれも東京支部の会員が担う。

二次選考に進んだ全ての学生が4月には東京の教育の担い手となっていることを願うとともに、今後も東京支部として学生の支援に努めて参ります。

正副支部長に叙勲

神奈川県支部事務局長　松下登志男

平成24年春の叙勲で、神奈川県支部の板倉忠臣支部長と雨宮博之副支部長に、瑞宝双光章が授与されました。ともに教育界における永年の功績が顕著であることが認められたもので、大変名誉なことです。神奈川県支部としても大きな喜びであり、誇りに思います。両先生に心からのお祝いと敬意を表するところです。

板倉忠臣先生は昭和31年3月に初等教育科を卒業され、津久井町（現相模原市）立中野小学校に赴任されて以来、平成8年3月に神奈川県教育庁津久井教育事務所長を退任されるまでの40年間にわたって活躍されました。その間、社会教育主事として主に青少年の健全育成に努められ、更に教育事務所の人事担当として、教員採用や人事異動などにも手腕を発揮されました。学校においては、教頭・校長として学校経営の先頭に立って子ども達や後進の指導に当たられました。

平成8年の県支部設立から現在まで支部長として活動を推進していただいています。また、大学を訪問して教員志望学生に熱意をもって指導を続けてこられました。

雨宮博之先生は昭和35年3月に初等教育科を卒業され、相模原市立旭小学校に着任されて以来、平成20年に相模原市教育委員会教育長を退任されるまで、実に48年間にわたって、学校及び教育行政の場で活躍されました。学校現場では特に理科・生活科の権威として市内の教員を牽引し、校長としても若い先生方と行動を共にする中で、意欲と創意に満ちた教員を育てることに努められました。

教育行政においては、「教育先進都市相模原」の創造のために全力で取り組んでこられました。

同窓会県支部の設立にあたっては、発起人代表として県内各地を奔走され、現在まで副支部長として尽力を続けていただいています。

両先生の叙勲のお祝いを兼ねて、相模原地区の同窓会「飛翔の会」が開かれ、にぎやかな交流が図られました。市内の学校には25年4月に10名の都留の卒業生の新採用が決まっています。教育界の更なる発展のために同窓会支部も役割を担っていきます。

支部活動の様子

山梨県支部長　倉田由和

支部活動の趣旨は、会員相互の親睦と旧交を温めることにあるととらえています。今年取り組んできた活動の報告をします。

《役員会・懇親会》24年7月6日

本県支部では、活動の活性化のため県全体を8ブロックに細分化し運営しています。

支部役員会には、各ブロックの代表と事務局担当者・支部相談役に出席を頂き、ブロック活動の報告や情報交換、支部全体の活動計画立案等を行っています。

この席で県支部の行事として「国会見学」と同窓生で母校職員の「佐野夢加」選手（オリンピック出場100M×4R）の応援・激励を決定しました。

《佐野夢加選手を激励》24年7月13日

佐野選手への激励は、都留市や関係団体が主催した「杜の森うぐいすホール」での壮行会の席で同窓生の熱い気持ちを伝えました。熱気に溢れた会場と佐野選手の力強いなかにも明るい決意表明に感激しました。

《国会見学》

本校同窓会顧問でもあります「輿石　東」先生（民主党参議院議員会長・民主党幹事長）の激励も兼ね9月7日国会見学を行いました。

激務多忙の中、時間を割いて私たちを会長室に迎えてくれました。冗談を交えて学生時代を語る先生のお顔はTV画面で見るのとは大違い。議員食堂で一緒に飲んだコーヒーの香りは格別でした。

長野県支部結成　設立総会を行いました

長野県支部事務局長　市村一彦

長野県支部が同窓会長様はじめ多くの方の思い、ご尽力のおかげで設立されました。約千名への支部結成案内葉書の返信に「待っていた」「嬉しい」等、喜びの声が綴られていました。私も文大で学んだあの楽しかったときを思い起こしながら、新しくできた大切なつながりに感謝でいっぱいになりました。

設立総会は10月27日(土)、志賀高原の麓、山ノ内町渋温泉郷「月見の湯 山一屋」にて開催しました。大学から加藤祐三学長先生、千野文雄同窓会長様をお招きし、大学及び同窓会の現状として、大学紹介DVDと「2013年度大学案内」を見ながらお話いただきました。加藤学長から「足腰つかえ」の話や、合唱部が宮城で行ったクリスマスコンサートのことなどをお聞きしました。千野会長からは長野県や県支部設立への熱い思いを聞かせていただきました。ますます発展し続けるこの都留文科大学で学んだ同窓生であることを誇りに思いました。懇親会では、弓道部でがんばったこと・ゼミのこと・施設のこと・よく行った食堂のことなど、時のたつのも忘れて語り合いました。親子で同窓生の参加もあり、「やっぱり文大はいい」と実感する話ができました。

来年度は伊那で総会を開催する予定です。

○長野県支部役員

支部長	堀内　敏明	(1980年)
副支部長	小林　久通	(1982年)
〃	塩沢　　忍	(1983年)
監　事	小野沢伸二	(1988年)
事務局長	市村　一彦	(1989年)

東西交流の場　ー第16回 静岡県支部 総会ー

静岡支部長　清水　猶

支部は、地理的に広範囲であることから総会は、西部・東部と隔年開催が多い。

平成23年度は、伊豆の国市吉奈『おおとり荘』を会場に第16回総会が開催された。

(24年度総会は年明けに・23年度の報告が済んでいない）の理由から、支部としての恒例行事の整理を、活動報告に変える。

3月役員会　4月理事会・在学生との懇話会　5月模擬面接体験会　6月学生と語る会　7月同窓会総会　11月～1月教員志望学生のための特別講座・支部総会

総会の総括として、①出席者の高齢化と固定化②中部の同窓生の情報不足・・・の課題が明らかになった。

そこで、会長任期中(24・25年度)に【同窓会若手会員の情報収集及び組織加入促進】を実施したい。静岡県在住の同窓生各位のご理解とご協力（連絡）を強く念じている。

【連絡先】

①清水　猶　TEL（携）090-4856-6993
〒431-3101　浜松市東区豊町2387-1

②大傷　孝純　TEL（携）090-4235-6714
〒438-0811　磐田市一言306-4

◎平成24・25年度役員

会　長	清水　猶		
副会長	芦澤　安正	細田　和弘	
庶務会計	大傷　孝純		
監　事	塩澤　尚男		
理　事	星屋　康	西島　敏雄	森山　和保
	西岡　祥一		
顧　問	古泉　嘉一	永田　富男	松島　温通
	鶴見　親義		

第二回岐阜県支部総会・懇親会開催

岐阜県支部長　山本吉朗

平成23年度は、役員会を開き、総会に代えて運営事項等を決定しましたが、平成24年度は、役員の改選時期に当たり、総会を行うことにしました。

総会を開くに当たっては、事前に二度の役員会を開き総会の原案審議などを行ないました。

総会は、平成24年8月18日（土）午前11時から、「ホテルグランベール岐山」にて開きました。

16人の参加があり、総会では、議長選任に引き続き、事業報告、収支決算報告、監査報告および事業計画案、収支予算案審議などを行い承認されました。

続いて、役員の改選について提案がなされました。基本的に次期役員は、再選の提案がなされましたが、都合により、細野副会長が退任して顧問となり、新しく、藤井幸子副会長が選任されて承認されました

そのあと、都留文科大学紹介のDVDを鑑賞し、2013年度入学版の都留文科大学案内、都留文科大学報（H24.7.9号）の紹介があり、総会を閉じました。総会終了後は、懇親会を持ちました。懇親会では乾杯の後、料理を楽しみながら一人一人が現在の生活の様子や大学時代の思い出などを思い思いに語りました。大学在学時の懐かしい思い出や大学の発展の様子などについての話などで、大いに盛り上がりました。又、現在の生活の様子では、それぞれが仕事に積極的に邁進している様子が伺われ、現役を退役した者は、それぞれが趣味や健康増進に充実した毎日を送っている事が伺われました。

○平成24，25年度岐阜県支部役員

・顧　　問　細野　矩義（'66卒）
・支 部 長　山本　吉朗（'65卒）
・副 会 長　清水　　栄（'68卒）　藤井　幸子（'69卒）
・事務局長　佐藤　眞治（'72卒）
・庶　　務　藤墳　　功（'72卒）　加藤　勝祥（'78卒）
　　古川　一男（'81卒）　梅田　典利（'91卒）
・監　　事　河合　　均（'84卒）　山岡　一信（'84卒）

郷土の再発見

福井県支部長　小柳義夫

「すばらしいね。」「福井県の自慢の一つ。」との感嘆の声が聞かれました。

本年度の支部総会は、晩秋の11月10日（土）に勝山市で開催しました。

総会の前に、約1300年前に泰澄によって開かれた白山信仰の拠点寺院である、「国史跡白山平泉寺」の境内を散策する研修会を行いました。観光ボランティアの軽快な説明を聞きながら、参加者全員が福井県のすばらしさを再発見できる機会となりました。なお、「平泉寺」は世界遺産の候補地の一つにも挙がっています。その他、勝山市には「恐竜博物館」もあり、多くの県外見学者が訪れています。県外の同窓生の方々も是非お越し下さい。

ややもすると県外の観光地や史跡に目が向きがちですが、意外と地元の史跡や観光地のすばらしさを知らないことが多いものです。数年前から県内の様々な土地で開催し、その土地を知ることの大切さを実感しました。

研修後、西日本でも有数のスキー場にあるホテルに移動し、総会、懇親会を行いました。

１年ぶりや初めて参加する同窓生や現役大学生の参加もあり、大学時代や現在の生活等に年齢の壁を越え、時間を忘れ、楽しいひとときを過ごしました。来年も元気に会うことを誓い、宴を閉じました。

〈平成25，26年の福井県支部役員〉

会　長　西出　健一
副会長　杉村　敏隆　　荒木　基裕
監　事　小野田理夫　　岩田　真弓
庶　務　天立　智恵　　鳥居　和幸　　齋藤　珠樹

愛知県支部及び名古屋地域の活動

愛知県支部　名古屋「富岳会」副会長　福中好幸

１　県支部の活動

本支部は富岳会と称し、県内の８地域でそれぞれの活動を行い、年１回の地域幹事会、５年に１回の県総会を行っている。今年度の地域幹事会は12月に豊橋市で開催。その中で、岡崎市（西三河）で、同窓の高橋　淳教育長誕生の報告を受けるとともに、組織充実がさらに進んでいることが確認された。

〈平成25年度の県支部組織〉

支 部 長　岩重　佳子（名古屋　英文51卒）
事務局長　平手　孝幸（名古屋　初教55卒）
地域幹事　名 古 屋　竹内　義信（初教58卒）
　　尾　　張　竹谷　竹久（初教54卒）
　　海　　部　平野　　豊（初教56卒）
　　知　　多　山本　　肇（国文56卒）
　　西 三 河　平岩　康彦（初教58卒）
　　豊田･みよし　杉浦　俊孝（英文58卒）
　　東 三 河　雪山　忠宏（初教52卒）
　　新城設楽　後藤　康仁（英文58卒）

12月22日（土）ウェステージ豊橋にて

２　名古屋「富岳会」の活動

会員名簿約200名であり、24年度は「大学との交流」を大きな柱に活動の充実を図った。同窓会の教員採用試験支援活動への講師派遣や、都留大副学長の福田誠治教授を招き、いま注目を集めているフィンランドの教育事情についての学習会等を行った。

年１回の総会・年４回の役員会・年３回の特別研修会・若手懇親会・ブロック懇親会・年３回の会報発行・教育委員会や教員組合との交流などを行い、組織の充実と会員の技量アップに努めている。

支部の７年間を振り返って

三重県支部長　中矢泰之

平成17年7月2日。初代会長の山本征也さんの呼びかけで、6名が集まり、伊勢の地で「三重県支部」設立の話し合いがもたれました。

10回の「準備会」の会議を重ねるなかで、メンバーも17名に増え、会則づくり・同窓生にいかに周知を図るか・会費はどうするか・名簿作り等いくつもの解決すべき課題が浮かびあがってきました。

四苦八苦しながら、1年後の平成18年8月5日県都の津市「ホテル　プラザ洞津」で「三重県支部設立総会」を開催することが出来ました。出席者は37名でした。それ以後、総会は毎年1回開催し、本年度は第7回の支部総会を行いました。

4年後、女性役員の加入や若返りのため、役員の大幅な改選を行いました。その間、山本会長には精力的な指導の下、三重県支部の創設さらには組織の確立及び充実と、今日の礎を築いていただきました。

7年目に思うことは、①若い世代の人への支部情報の周知を図ることです。最近の卒業生については卒業後の動静についての資料がなく、把握が難しくなっています。他支部も似た状況かと思います。支部では一昨年度から「支部情報」を発行して、支部の状況・総会の様子・会員の動向や大学の状況等を知らせています。②会員間の絆をより強くする取り組みも組織の充実のためには重要になります。過日の役員会では新たな取り組みが何点か提示・検討されました。

支部が出来てから、「あの人も同窓生だとか、あの世話になった人が同窓生だった等都留を意識することが増えた」とよく耳にするようになった昨今です。

7年間を振り返っての雑感です。

平成24年6月9日　総会(三重県教育文化会館)

兵庫県支部同総会のあゆみ

兵庫県支部事務局長　高谷和久

「ひんがしに富士の嶺峰を仰ぎ、西に桂川の清流を臨む我が都留文科大学、学生歌『花のかげ』」を合唱して、平成24年度の兵庫県支部同総会の総会も盛会のうちに終えることができました。

ふり返ってみれば、兵庫県支部の立ち上げは、平成3年7月28日、白尾恒吉学長、近藤幹夫教授を講師として招き発足をいたしました。

以来、兵庫県支部においては、県内を7つの地区に分け、東播磨、西播磨、阪神、神戸、淡路、但馬、丹有地区を巡って同窓生の親交を温めております。

本年は、22回目の兵庫県支部総会を同窓生30名の参加のもと、東播磨（明石市）において開催いたしました。

昼食を兼ねた懇親会では、都留の街の変わりよう谷村の木造校舎での講義、夜中に裸電球を持参してのオルガンの練習、同盟休校中に退学していった友達のこと、採用試験が現在に比べると本当に広き門であったこと等々、話が尽きないまま、次回の開催地で再会することを楽しみに閉会となりました。

平成24年度兵庫県支部総会次第

第1部　総会（10:30～11:30）

①会長あいさつ　②23年度事業報告　③23年度会計報告　④新役員選出　⑤24年度事業計画案　⑥24年度会計予算案　⑦大学の現状報告

第2部　アトラクション（11:30～12:30）

「二胡の調べ」二胡奏者　鳴尾牧子氏

第3部　懇親会（昼食）（12:30～14:30）

①開催地あいさつ　②卒業年次毎に近況報告

なせば　なる

広島県支部会長　小谷桂司

「成すことによって　学ぶ」を信じ、支部活動も少しずつ、少しずつ行動を起こしています。

人と人を繋ぐ　人の心を結ぶ　それが組織の充実・拡大。そして、よりよい定着・足跡づくりを祈念し。

総会の場所を変え、変化を期待し、県の会報「都留」(A4で1枚）を年に1回は、発刊を。

広島県23市町（町は9町)、狭いようで広い。時間は十分あるようでない・・・・「なせばなる」を信じ。昨年、平成24年の漢字一文字が発表され「金」でした。今年、前期高齢者の仲間入りをした私ですが、今尚、仕事を戴き、職している町が「海田町」です。この海田町の出身者の一人が日本初のオリンピック金メダリスト「三段跳びの織田幹雄」です。

織田さんの「ホップ　ステップ　ジャンプ」を「夢　希望　勇気」にし、町の合言葉とし、更に教育の推進力に、「強いものは美しい」（織田氏のことば）の粘り強く「なせば」美なるものが「なる」と。

平成24年度役員

顧　問	金久　睦彦	松田　昌紀	中西　正一
会　長	小谷　桂司		
副会長	表　善彦	目崎　仁志	
事務局長	二宮　正（兼：会計）		
理　事	佐島千賀子	田丸　正実	宮本　仁
	山城　義明	猪原　憲三	本宮　達弘
	土橋　義信	三永　政幸	田中　春樹
	池田　桂子	島本　智子	
監査役	三井　昌宏	白石　隆	
幹　事	山中　護	田辺　恵子	五葉木輝正
	兼丸　裕子	安藤　正弘	奥窪　尚昭
	末房　朋子	杉山　幸子	松浦　富枝

結成から満10年目前の岡山支部

岡山県支部長　原田直樹

平成15年8月に岡山県支部が誕生してから、早いもので満10周年を迎えようとしています。

発足当初は支部総会を8月に実施していましたが、会員が集まりやすい時期を検討した結果、2月11日（建国記念の日）に変更して、岡山市内で開催するようになり、平成24年度もその予定で、ただいま準備を進めているところです。

そういうわけで、岡山県支部満10歳の記念すべき期日は、厳密に言えば平成25年8月となりますが、上記の事情で総会開催が半年遅れですので、平成26年2月11日の予定で記念行事を検討しているところです。

会場は近年、公立学校共済施設「ピュアリティまきび」で行うようになっています。24年2月には写真の8名が集いました。支部の発展をめざして連絡体制の徹底を図り、より多くの会員が参加できる体制づくりをとの御意見を頂戴しました。

同窓生を多数輩出している岡山県支部としては、会員の声に耳を傾けつつ、集いの輪を広げてまいりたい所存であります。支部総会には、ぜひ懐かしいお顔を見せください。皆様の御参加をお待ちしています。若手の方々もぜひ参加してください。

岡山県支部役員

支部長　原田　直樹
副支部長　菱川　　徹
理　　事　岩城　孝志、坂上　信二、中野　元雄、土師　康生
監　　査　川口與志継、岩崎　美幸
事務局　岩城　孝志、岡本　智江

平成24年度　鳥取県支部総会報告

鳥取県支部長　藤田　修

秀峰大山の冠雪と麓の錦繍とが鮮やかなコントラストを醸し出す晩秋の最中、昨年度より日程を固定した11月23日（金）に、倉吉駅前の「ホテルセントパレス倉吉」に於いて、支部総会を開催しました。

前回の出席者に誘われて初参加という会員もあり、前年度より2名増、15名の参加を得て、盛会裡に総会を終えられたことを、会員の皆様とともに喜びたいと思います。

総会では、会長の理事会参加報告があり、
・教員免許状の取得可能教科拡大に向けて（学長）
・看護系高等教育機関の誘致について（理事長）
等に、強い関心が集まったようです。また、各支部の会員確保や総会参加者の増加に向けた取り組みも興味を引き、学ぶことも多々ありました。

例年、懇親会での話題は、学生時代の思い出話が大半を占めるのですが、今年は違っていました。参加者の中に、惜しくもシリアで凶弾に倒れられた山本美香さんと同学年だった人があり、改めて彼女の業績の偉大さに思いを馳せました。

退職者・現役ともに、会員に登山愛好家が多いことがわかったのも、今年の収穫の一つです。やはり、富士山や三ツ峠等、名山の近くで暮らした4年間の影響は大きいものがあります。いずれ、県支部の山岳部でも結成されそうな期待も生じた一日でした。

同窓生の皆様来年も11月23日誘い合って県中部にあつまりましょう。

◎平成24・25年度支部役員

会　　長　藤田　　修（昭50）
副会長　金田吉次郎（昭46）　山本　英明（昭50）
監　　事　小山　敏夫（昭47）　井上美也子（昭53）
事務局長　小坪　宏成（平８）
庶　　務　西田　智貴（昭61）　谷口　俊則（平４）

島根県支部の近況

島根県支部事務局長　小藤　貢

本支部は、平成17年に設立以来隔年に総会及び懇親会を開催しています。

総会のない年には、役員会を開催して都留本部総会の報告や支部の今後のあり方など話し合っています。今年は、松江市「サンラポーむらくも」において、9月29日（土）に役員会を開催しました。まず、8月にシリアにおいて取材中亡くなられた、都留文卒業生のジャーナリスト山本美香さんの冥福を祈って黙とうしました。その後会議に入り、主な議題として役員の改選の話題がでて、創設以来8年間留任であることから、支部長から次年度は大幅に改選しようという提案があり、話し合いはその方向で進めていくことになりました。

懇親会になると、やはり都留市谷村での話題にタイムスリップしての懐かしい想い出話で持ちきりとなり、楽しい一時でした。都留へ行きたいという話から、大きな収穫があったのは、来年度の模擬面接試験体験会の指導者として派遣者の内定が出来たことでありました。今後、さらに会員の絆を深めていくことを確認し、閉会しました。

◎平成23･24年度島根県支部役員

会　　長　木村　晴男
副会長　服部　哲朗　方山　敦司　中谷　真澄
理　　事　寿　慧信　池田　稔　伊藤　博
　　槇野　博巳　古瀬　厚義　飯島　良子
監　　事　花田　俊成　恩田　量雄
事務局長　小藤　貢

高知県支部誕生から10年

高知県支部長　清岡典代

平成15年6月に高知県支部が誕生してから今年で10周年を迎えました。全国一少ない同窓生の県で、設立に当たった諸先輩の皆様にあらためて敬意を表したいと思います。今までは、支部総会を県西部と高知市で交互に開催していましたが、本年度は、8月4日(土)午前10時に高知駅前を出発して高知県の中部地区へと足を延ばし、まず南国市にある県立歴史民俗資料館で長宗我部元親に関する資料見学や岡豊城址を散策し、移動して清岡会長の地元の物部川のほとりにある「夢の温泉」で支部総会と親睦会が行われました。支部総会は研修も取り入れて実施され総会の後は、「吉井勇記念館」を訪れ自筆の作品や貴重な写真を見学し吉井勇の祇園を詠んだ甘美な世界、ゴンドラの歌の如き青春の唄の世界に浸ることができました。

私は、昭和45年に英文学科を卒業し、神奈川県の平塚市に英語教員として37年間勤務し、退職とともに生まれ故郷の高知県の東部の奈半利町にUターンしてきました。現在は、奈半利町の幼稚園と保育所に勤め、今度は、就学前教育の現場にいます。また、野菜や町の特産の「イチジク」栽培に励んでいます。

昨年より支部の仲間に入れていただきましたが都合で参加できず今年こそはという願いが実現しました。参加者の中に在学当時の高知県人会で顔見知りの同窓生の男性がいました。驚くとともに昔に戻ったような気がしましたし何か安堵感が生まれました。

私たちは遠い高知県から縁あって都留文科大学で勉学に励み、青春時代を過ごした共通点だけで何かほっとします。花のかげから始まり議事が終了したところで記念写真を撮影し食事をしながら親睦を深めました。物部川の川面が見える素晴らしい部屋でのおいしい食事でした。

同窓生の中には、高知県の教育界で活躍をされた方や、現在活躍されている方もいるとのお話を伺い頼もしく思いました。今年は6名の参加者でしたが、アットホームな感じの会で気楽に参加できる雰囲気です。都合のつく限り今後とも参加を続けていきたいと思います。

都留文科大学と高知県支部のますますのご発展を祈念し、支部総会の報告といたします。

(文責　東　明夫)

「千野文雄会長」をお招きして

熊本県支部長　永田好文

昨年11月、2年に一度の県支部総会を開催しました。県内各地から16名の参加があり、その中に初参加者が2名いらっしゃいました。また、欠席者からも、「次回は参加します。」と数名返事があり、26年度11月・第2土曜日の支部総会では、目標の20名以上に届きそうです。

さて、今回は何よりも千野会長にご臨席いただいたことが、盛会に繋がりました。心温まる講話をいただいた後の親睦会では、当時県外出身の学生がよく口にした片言の山梨弁が飛び出し、大いに盛り上がりました。そのような中、「是非、都留の地を訪れたい。」との声が聞かれ、今後、本支部でのツアー企画も一考する必要性を感じた次第であります。これも、千野会長に会員の第二の故郷「都留」を想う心に火を灯していただいたからなのでしょう。終了時には、参加者の心はすっかり当時にタイムスリップし、懐かしい「武田節」の全員合唱で、盛会のうちに会を閉じることができました。

☆平成24・25年度支部役員

◆顧　　問　川口　治夫（34年卒）
　　田山　智晶（35年卒）
　　倉岡　康夫（39年卒）
◆会　　長　永田　好文（48年卒）
◆副 会 長　髙倉　利孝　　山辺　健二（48年卒）
◆事務局長　田山　智雄（元年卒）
◆会　　計　北口　　修（62年卒）
◆会計監査　長嶺喜代子（38年卒）
　　藤掛　久美（49年卒）
◆同窓会誌担当　北口　　修　　田山　智雄
◆地区委員
　○県　北　松村　誠一（43年卒）
　○阿　蘇　山辺　健二
　○熊本・宇城・上益城　北口　　修　　田山　智雄
　○八　代　白木　憲昭（48年卒）
　○天　草　髙倉　利孝
　○人吉・球磨・葦北・水俣　坂本　　彰（53年卒）

体育会

平成24年度体育会会長　臼田慎一郎

春陽の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、平成24年度都留文科大学体育会はスローガンに「勝力（かつりょく）」を掲げ、勝ちに拘る姿勢と、最後まで諦めない精神を目標に活動してまいりました。去る6月23・24日には、体育会最大行事であります鶴鷹祭が行われました。昨年はホームでありながら惜敗を帰する結果となってしまいました。その雪辱を晴らすべく、都留文科大学選手団は勝利への執念を燃やし、今大会に挑みました。結果は、アウェーという厳しい状況の中でしたが、16対14で見事に雪辱を晴らし、総合優勝することができました。これも関係者各位の方々、並びに都留文科大学の諸先輩方のご声援とご指導のお陰です。厚く御礼申し上げます。

今後も都留文科大学体育会はスポーツを通じて、大学を盛り上げ、且つ地域貢献できるよう努力していく所存であります。至らぬ点は多々ございますが、今後とも、ご指導とご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

鶴　鷹　祭

文化会

平成24年度文化会
会長　二村　彩

春暖の候、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方におかれましては、ますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成24年度におきましては、文化会所属の合唱団が「第65回全日本合唱コンクール全国大会」におきまして、4年連続で見事金賞を受賞し、大変優秀な成績を収めることができました。

これは、現役の力の他、OB、OGの先輩方のお力添えの賜物と、深くお礼申し上げます。

また、管弦楽団、吹奏楽部などの音楽団体の定期演奏会や、写真部・美術部などの展覧会など積極的に活動を行っています。

文化会本部におきましては、諸先輩方が築いて下さった伝統を引き継ぎ、各団体のさらなる発展を目標に、積極的に活動を行っていきたいと思います。

今後とも、都留文科大学同窓会会員の諸先輩方には、ご指導とご鞭撻のほどよろしくお願いします。

桂川祭にて

第65回全日本合唱コンクール全国大会

平成23年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部　（単位：円）

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備考
入会金	4,105,000	△5,000	4,100,000	4,100,000	820人×5,000円＝4,105,000円（震災入学辞退1名）
終身会費	8,210,000	△10,000	8,200,000	8,200,000	820人×10,000円＝8,210,000円（震災入学辞退1名）
繰越金	2,302,215	0	2,302,215	2,302,215	平成22年度繰越金
雑入	28,785	0	28,785	74,463	理事会懇親会御祝儀、預金利息、50周年記念誌販売（5冊）
収入合計	14,646,000	△15,000	14,631,000	14,676,678	

◆支出の部

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	支出済額	備考
事業費	7,315,000	601,000	7,916,000	7,398,343	被災地支援活動費創設
会報発行費	2,700,000	△184,000	2,516,000	2,408,376	同窓会報第30号（平成23年度発行）
支部助成金	3,400,000	△200,000	3,200,000	3,000,000	山梨　東京　神奈川　愛知　静岡　600,000円（@120,000円×5支部） 兵庫　110,000円（@110,000円×1支部） 北海道　岩手　宮城　千葉　富山　岐阜 石川　福井　大阪　広島　茨城　1,100,000円（@100,000円×11支部） 山形　群馬　三重　島根　岡山　愛媛　720,000円（@90,000円×8支部） 徳島　鹿児島 鳥取　長崎　熊本　宮崎　沖縄　400,000円（@80,000円×5支部） 高知　70,000円（@70,000円×1支部）
支部設立準備金	450,000	△450,000	0	0	
新入学祝費	500,000	500,000	1,000,000	982,726	
支部旗作成費	165,000	△165,000	0	0	
教員採用試験学習会費	100,000	0	100,000	60,000	宮城　千葉　東京　富山　静岡　愛知　60,000円（@10,000円×6支部）
被災地支援活動費		1,100,000	1,100,000	947,241	被災地支援クリスマスコンサート
会議費	2,000,000	△500,000	1,500,000	1,465,031	
総会費	500,000	△200,000	300,000	292,041	
理事会費等	1,500,000	△300,000	1,200,000	1,172,990	
同窓会本部費	1,830,000	200,000	2,030,000	1,928,472	
事務費	100,000	0	100,000	58,681	
運営費	1,500,000	0	1500,000	1,459,791	事務費700,000円含む
慶弔費	120,000	200,000	320,000	310,000	被災県見舞金1県10万円　岩手、宮城含む
本部役員活動費	110,000	0	110,000	100,000	平成23年度役員報酬
積立金	3,200,000	0	3,200,000	3,200,000	財政調整基金600,000円、大学創立記念事業基金2,600,000円
予備費	301,000	△301,000	0	0	
支出合計	14,646,000	0	14,646,000	13,991,846	

（収入済額）　（支出済額）　（収入・支出差引残高）
￥14,676,678　－　￥13,991,846　＝　￥684,832

◎基金の増減

◆平成22年度末積立現在高	34,299,085円
◆平成23年度中積立金（財政調整基金、大学創立記念事業基金）	3,200,000円
（財政調整基金600,000円、大学創立記念事業基金2,600,000円）	
計	37,499,085円

基金内訳

財政調整基金	9,602,425円
大学創立記念事業基金	27,896,660円
計	37,499,085円

第22回都留文科大学同窓会総会のお知らせ

○日時：平成25年8月4日（日）午後2時　○場所：都留文科大学2号館　101教室

同窓会会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

同窓会の事業である「在学生との懇話会」「模擬面接体験会」等、会員の皆様の協力で充実したものになってきました。また、宮城県や東京都の支部独自活動から始まった教採対策学習会等の支援活動も各支部へと拡大しています。今年度も各支部より教採対策学習会の開催内容等が同窓会本部に報告されています。今後もさらに充実させていきたいものです。

さて、各位の厚いご協力のおかげで、同窓会総会も重ねて22回目となりました。昨年10月には長野県支部が設立され、会員数も平成24年4月1日現在29,874名となり、各界での会員の活動も同窓会報に見られるように素晴らしいものがあります。

第22回の同窓会総会は、全国から集まっていただく会員の皆様に良い思い出が残せるように、富士五湖の花火大会が行われる間の8月4日（日）とさせていただきました。8月1日の山中湖の報湖祭を皮切りに、西湖・精進湖・本栖湖と湖上での花火大会が続きます。最終日の8月5日には、富士五湖の最大の花火大会である河口湖湖上祭が行われます。

夏の日の思い出に同窓会総会に参加して昔を語り、夜は打ち上げ花火を見て帰りませんか。できる限り会員同士連絡を取り合い、大勢の参加を心よりお願い申し上げます。一人でも多くの同窓会員が出席して、盛大な総会が開かれることを執行部も大学当局も切に願っております。よろしくお願いいたします。

美香さんのメッセージを未来へ
～故　山本美香さんを偲ぶ会～

シリアで取材中に銃撃され死亡したジャーナリスト山本美香さんは、本校英文科の卒業生です。10月4日（木）に都留市のうぐいすホールにて「山本美香さんを偲ぶ会」が行われました。

世界の紛争地域から戦禍の惨状や住民の暮らしを伝えるとともに、その体験を基に都留市の中学校や高等学校、大学等で平和に対する考え方などを講演しました。特に、戦地における女性や子ども等、立場の弱い住民の暮らしに着目して反戦平和活動を長年にわたり続けてきた世界平和に対する貢献は大きく、その強い責任感と使命感に溢れる行動は、日本中に敬愛され、かつ、希望と活力を与えてくれました。ご冥福をお祈り申し上げます。

山本美香さんの歩み

1967年　北海道帯広市で生まれ都留市に育つ
1990年　都留文科大学英文学科卒業「朝日ニュースター」入社
1996年　「ジャパンプレス」に所属し、アフガニスタンなどの世界各地の紛争地を取材
2001年　日本テレビ社長賞　受賞
2002年　第26回野口賞　受賞
2003年　ボーン・上田記念国際記者賞特別賞　受賞
2004年　ウーマン・オブ・ザ・イヤー2004　キャリアクリエイト部門賞　受賞

全国の同窓生をつなぐブログが開設されました！

同窓会ブログ：http://www.tsuru.ac.jp/subject/dousokai/

同窓会本部、支部、事務局からのお知らせ、クラブやゼミのＯＢ会の情報などを掲載しています。

ワンダーフォーゲル部ＯＢ会・学士山岳会「創立50周年記念事業」

平成25年8月17日(土)　14時30分～　都留文科大学
記念講演：渡辺玉枝さん（ＯＧ）「河口湖からエベレストへ」
連 絡 先：〒519−0211　三重県亀山市川崎町1937−6
記念事業準備事務局担当：山中保一　yama1260@gmail.com
ホームページ：http://turudaiyamanoobkai.jimdo.com/

支部をつなぐ同窓会電子メールシステムが開始

平成23年8月「同窓会の35都道府県支部の組織間や、本部との情報共有の強化を図る」ことを目的とした電子メールシステムの運用が開始されました。

表紙（高川山からの都留の夜景と富士山）
写真提供　浅川　博氏